

今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

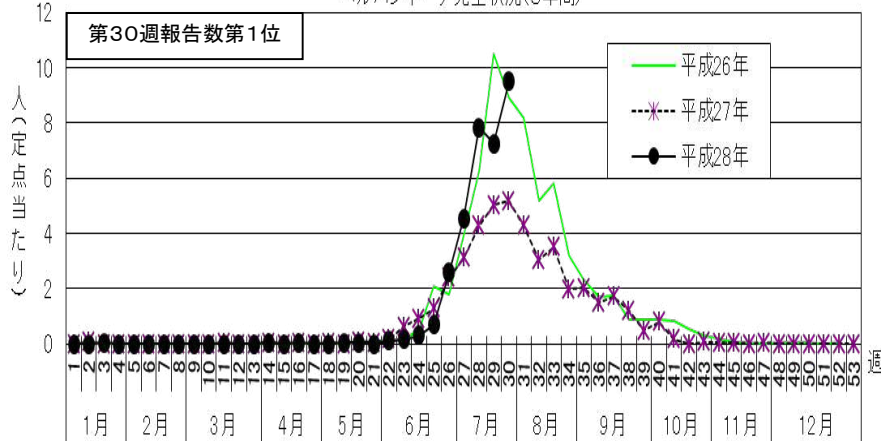


平成28年7月25日（月）～平成28年7月31日（日）〔平成28年第30週〕の感染症発生状況

第30週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1)ヘルパンギーナ 2)感染性胃腸炎 3)流行性角結膜炎でした。
ヘルパンギーナの定点当たり患者報告数は9.50人と前週（7.24人）から増加し、例年より高いレベルで推移しています。
感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は5.06人と前週（4.27人）から横ばいで、例年より高いレベルで推移しています。
流行性角結膜炎の定点当たり患者報告数は1.89人と前週（2.89人）から横ばいで、例年よりかなり高いレベルで推移しています。



ヘルパンギーナ発生状況(3年間)



感染性胃腸炎発生状況(3年間)



腸管出血性大腸菌感染症にご用心！！

川崎市内では6月下旬以降、腸管出血性大腸菌感染症（O157など）が毎週発生しており、第30週（平成28年7月25日～7月31日）には2件の届出がありました。例年、患者数は8月下旬頃にピークとなります。

腸管出血性大腸菌感染症とは？

➤ 感染経路

・菌に汚染された食品や患者の便で汚染されたものを口にすることで感染
(咳・くしゃみ・汗などでは感染しません。)

➤ 潜伏期間

・2～14日（平均3～5日）

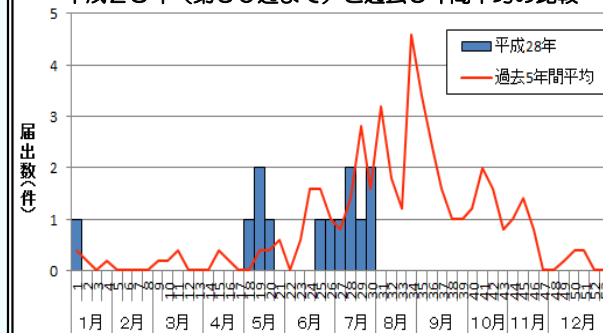
➤ 主な症状

・激しい腹痛や頻回の水様性下痢
・著しい血便を伴うこともある。

※子どもや高齢者は、溶血性尿毒症症候群（HUS）や脳症などの重症合併症を起こしやすいといわれています。激しい腹痛や血便がある場合には、直ちに医療機関を受診しましょう。



川崎市における腸管出血性大腸菌感染症発生状況
-平成28年（第30週まで）と過去5年間平均の比較-



＜感染予防のポイント＞

- ・生肉または加熱不十分な肉を食べない。
(加熱は75℃で1分以上)
- ・生野菜などはよく洗う。
- ・調理前、食事の前にはしっかり手を洗う。

